



▼筑波研究学園都市に近いヘリポートでの操縦訓練風景



F.E 64 FT

JA7885

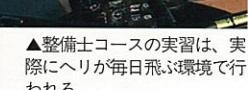


▲句坂さんの「商売道具」、日本での各種ライセンスとログ・ブック



▲整備作業での句坂さんの仕事は、主に整備の指示

▼アルファー・アビエイションは自前のヘリを毎日運航する航空会社である



▲整備士コースの実習は、実際にヘリが毎日飛ぶ環境で行われる

そして、そのどちらのタイプにも、そのスタイルで働く職場がある。最近、震災などの影響による防災ヘリコプターの増加、民間航空事業会社の新規機種導入により、整備士もパイロットも求人は増えているのだ。それがわかると、がぜん「空の仕事」への転身は、誰にとつても現実味が帯びてくる。

アルファー・アビエイションの提供する整備士コースは、その実現を確実にする、非常に良く考えられたシステムを持つ。まずは通信教育で「三等航空整備士回転翼航空機」の学科試験に向けた勉強。合格までは、現在の仕事（学校）を続くながらの、リスクのない学習が可能なのである。

そしてさらに大きなメリットが、学科試験の合格後にもある。というのもヘリコプターの整備士になるためには、学科試験の合格後、1年間の実務経験がなければ最終試験である実地試験の受験ができるのである。資格を得る前に就職先を探さなければならないこの制度は、整備士養成をうたう専門学校などでも最大のネックになっている。

アルファー・アビエイションは、この制度をクリアできるのだ。整備士・パイロットの養成校として知られる同校は、実は同時に運輸省航空局機使用事業免許を持ち、航空会社の認可を得ていているのである。

「整備士からパイロットに進む人は結構多いのです。知識が生かせる上に、費用の面から考えても負担が少ない」と句坂さん。確かに、整備士コースから始めれば最初の投資は50万円のみ（アルファーラー・アビエイション・学科コースの場合）である。

整備士とパイロットの2つの免許を持つてば、いずれは独立開業も夢ではない。



「空の仕事」の夢を確実に叶える ヘリコプター整備士免許

二等航空整備士回転翼航空機

▲アルファー・アビエイション整備課

句坂 央児さん



日本大学理工学部卒業。大学在学中に自家用飛行機操縦士の免許を取得し、インストラクターの道にアルファー・アビエイションに入社後、ヘリコプター整備士・パイロットの免許も取得し、現在は整備の業務に携わる。

働きながら学べる学科試験合格へのコース

誰もが一度は、大空への夢を持ったことがあるに違いない。それを自分の仕事として実現することができたらという願望を、心の奥底に持ち続けている人も少なくないのではないか。ただし、それはある種の「資格」を得ることによって、確実に実現できることを知っている人は少ない。

空の資格、といえば、誰でもがまず飛行機やヘリコプターのパイロットの免許を思い浮かべるだろう。半面、「整備士」の存在を考える人は少ない。しかしこの整備士という職業、そしてその資格は、非常に魅力的である。

ヘリコプターの整備士・パイロットの養成スクール『アルファー・アビエイション』で整備士コースの教官を務める句坂央児さんは29歳。飛行機ヘリコプターのパイロットの資格も持ちながら、あえて自分の仕事「整備」へのこだわりを

持っている。

「仕事としてはパイロットよりも面白いかも、と思っているのです。整備と聞くと、油にまみれたメカニックだけを想像するかも知れませんが、それは仕事の一端。実際の航空整備士の業務は、もっと幅広いのです」



Alpha Aviation

<http://www.pilot-license.com> TEL03-3452-8420

ダイヤモンド社 エグゼクティブ編集部より許可を得て転載 ©DIAMOND Inc. 1996